様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　９ 月 ２７ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｈ０３７０２

研究課題名（和文）社会運動における生存権・生存思想の影響とその射程に関する基礎的研究

研究課題名（英文）A Basic Research on the Influence of Right to Life and its Philosophy in Social Movements

研究代表者
友常　勉（Tomotsune, Tsutomu）

東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・教授

研究者番号：２０５１３２６１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　7,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1970年代に、単なる非西洋・反近代のオルタナティヴを追求する地域主義から、開かれた対話を目指す国際主義の質を獲得した、生存権という思想的転回を経験した地域住民運動・社会運動・文化運動を、思想・文学・アート・パフォーマンス芸術などの諸ジャンルのなかで見定めるものであった。それを沖縄、独裁政権後のアルゼンチン、内戦後の上からの土地改革に端を発したアフリカ、ベトナム戦争後の社会再建に取り組むベトナムの文学や宗教者、ポスト植民地主義を課題とする日韓の文学・思想運動における連帯、そして日本の新左翼運動の敗北と反差別運動の生成という歴史的過程の中に探った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
まず、開かれた対話を目指す国際主義の質を獲得した、地域住民運動・社会運動・文化運動の現代的達成を集約することができた。具体的には、沖縄のアイデンティティを問う演劇「人類館」上演への参与、基地を思想資源にまで掘り下げた美術の展示とその文脈の解読、独裁政権後のアルゼンチンにおける不処罰と共生の実践の共有、アフリカにおける内戦後の上からの土地改革に介入する国際主義の意義、ベトナム戦争後の文学・宗教者運動、ポスト植民地主義を課題とする日韓の文学・思想運動における連帯、そして日本の新左翼運動の敗北と反差別運動の生成を生存権・生存思想の展開に位置付けることができた。

研究成果の概要（英文）：First, the research, A Basic Research on the Influence of Right to Life and its Philosophy in Social Movements, achieved a collection of contemporary works among local residential movements, social movements, and fine arts activities, which realized the quality of open dialogue in the international discourse: the theatrical practice of Jinruikan (Museum of Human Races), exhibition of fine arts which deepens the experience of living with military base, Argentine's social movements seeking for co-living and non-punishment, and internationalism's intervention toward land reform policies after the independent movements in Africa, Vietnamese literary and religious movement after the Vietnam War, Korea-Japan Solidarity Movement of literature and intellectual history focusing on post-colonialism, and the relationship between Japan's new leftist movement and anti-discriminatory movement by minorities.

研究分野：日本思想史

キーワード：生存思想　社会運動　沖縄　アフリカ　アルゼンチン　新左翼運動　文化運動　ベトナム戦争

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究「社会運動における生存権・生存思想の影響とその射程に関する基礎的研究」における生存思想とは、地域社会のなかで自生的に形成されてきた、反近代的・非 西洋的でオルタナティヴな思想が、国際法が規定する生存権と出会うことで、生命・自然・ コモンズを立脚点として明確に意識し、開かれた対話と国際主義を獲得した思想内容を指す。生存思想の現れとして本研究は次の複数の参照項を持つ。第一には、1970 年代の施政権返還時の沖縄における反開発の抵抗運動である金武湾闘争（石油備蓄基地建設反対運動）にお いて、1980 年代初頭の玉野井芳郎やイヴァン・イリイチの来沖を経由して、「ゆい（協働）」的結合に基盤を置いた住民たちが、裁判闘争を通じて再定義するにいたった「生存権」を守る闘いである。その闘いが求めたのは海や大地とともに生きる権利であり、共同体の権利であるが、しかしそれは「個」の共同体への解消を意味しなかった。むしろ金武湾闘争においては、抵抗する「底辺の人間」たち一人一人の足跡の掘り起こしにもとづき、「個」の総体として共同体が把握された。さらにパラオなど太平洋諸島の反開発の運動との連帯を模索していった。生存権・生存思想としての自己認識は、「個」という主体を単位とする「共同の力」によって再定義される。すなわち「個」と共同体の区別と統合という契機を有している。それが開かれた対話と国際主義を可能とする条件となっている。

第二に参照されるのは、1960 年代のベトナム戦争の渦中で、文学・哲学・批評の諸領域を横断しながら社会現象を引き起こしたベトナムの思想家、ファム・コン・ティエン（以下、ティエン）の代表作『深淵の沈黙』（1967 年）に結実した、ベトナムという東洋的局地性を脱構築し、再獲得した生命＝性命の思想である。ティエンは、ハイデガー、ニーチェ、ヘンリー・ミラーの精華を、東洋哲学と仏教の背理の論理によって読み破り、ベトナム＝越南 Việt Nam の〈越〉という場を言語的・地政学的な超‐越の場へと昇華した。それは、西洋において当為とされている、共産主義と資本主義、自由と隷属、戦争と平和のような二項対立的な世界を〈生＝性〉の原理から解き明かし、その背後の〈生命〉の働きを見定め、それに よって解決不能で二律背反的な現実世界を克服する思想的跳躍を実践するものであった。これらの冷戦期の東アジア・東南アジアにおいて形成された生存権・生存思想を手がかりとして、その展開を社会運動の基盤において把握し、現在の社会運動の可能性を見定めることを、本研究の目的とした。

２．研究の目的

本研究は、ベトナム戦争末期で新左翼運動の退潮期にあたる 1970 年代に、単なる非西洋・反近代のオルタナティヴを追求する地域主義から、開かれた対話を目指す国際主義の質を獲得した、生存権という思想的転回を経験した地域住民運動・社会運動・文化運動を、思想・文学・アート・パフォーマンス芸術などの諸ジャンルのなかで見定めるものであった。それを沖縄、独裁政権後のアルゼンチン、内戦後の上からの土地改革に端を発したアフリカ、ベトナム戦争後の社会再建に取り組むベトナムの文学や宗教者、ポスト植民地主義を課題とする日韓の文学・思想運動における連帯、そして日本の新左翼運動の敗北と反差別運動の生成という歴史的過程の中に探ることとした。

そうした目的のもとで、本研究は、具体的な思想・文学・アート・パフォーマンス芸術などの諸ジャンル、さらにポスト冷戦期の南米・アフリカ地域での内戦の経験における生存思想の可能性も検証することを課題とした。それによって、生存権 を核心とした人文学の刷新に貢献するペダゴジー論としても提起しようとするものであった。

３．研究の方法

本研究の研究方法は以下の三つの課題によって構成された。

①冷戦期東アジアにおける社会運動・文化運動における生存権・生存思想の実践の集積。本研究は準備段階から韓国・沖縄・ベトナムの思想・文学・文化的実践の比較研究を進めてきた。韓国の済州島 4・3 事件にみる冷戦構造と犠牲者追悼をめぐるコンフリクト、韓国 - 沖縄を貫きつつ、大西洋諸島までみすえた、政治・文化・労働の軍事化と抵抗、そしてベトナムの思想的実践である。それぞれの文化交差性を踏まえ、アクティビスト、アーティスト、信仰者や地域住民の聞き取りと資料調査によって、生存思想の多様性を集積し比較する。②ポスト冷戦期の政治闘争や内戦における生存権・生存思想の可能性の検証。東アジアにおける生存権・生存思想の諸形態をモデルとしながら、アフリカ地域やラテンアメリカ地域の「ポストコロニアル家産制国家」のもとでの内戦と、そこにおける生存権・生存思想の可能性を見定める。経済的・政治的なインフラが不十分なまま政党政治に移行した各国・各地域では、動員されたエージェント集団の衝突が顕在化した。それは当該地域での持続可能性を考えることでもある。③最後に、こうした人文学諸分野と地域研究の成果のすり合わせを通して、人文学における生存権・生存思想のアウトプットを考える。それは史資料の分析方法、聞き取り調査の方法論の統一、次元の異なる概念や方法論の共有といった作業を必要とする。その上で、「何をどう教えるか」という高等教育のペダゴジー論へとまとめあげる。

本研究は、研究代表者の友常と研究分担者 8 名の計 9 名から構成された。メンバーの専門は 以下の通りである。地域研究（友常、武内）、文学（野平、呉、高、金）、社会学（上原）、歴史人類学（石田）。同時に友常・野平は思想史研究も専門とする。主たる調査地域は、韓国（呉、高、金、古川）、沖縄（上原、呉、金）、ベトナム（野平、高）、アフリカ（武 内）、南米アルゼンチン（石田）である。加えて、友常は戦後日本の新左翼運動と生存権・生存思想との関係を担当し、計画全体の統括を行うものであった。

４．研究成果

具体的な調査対象地・調査内容にもとづいて、友常勉は日本の新左翼運動と内ゲバ事件等の裁判資料調査、反差別闘争の当事者への聞き取り調査について、「革命における時間とマルチチュード――戦後日本の新左翼運動とネグリ、長崎浩」（「現代思想」2024 年 5 月臨時増刊号）、反差別運動の歴史的文脈については、「部落解放運動と〈人権〉」（日本史研究，729 号，2023 年）、「被差別部落という装置と原国家－－側置される外部」（『「論争」の文体－－日本資本主義と統治装置』法政大学出版局、2023 年）として結実した。

野平宗弘は、ベトナム戦争当時資料収集と分析、ホーチミン市内の仏僧、在外ベトナム人知識人調査を課題とし、「雑誌『思想』とベトナム戦争」（『思想』1187 号、2023 年）、「ベトナムにおける鈴木大拙の受容――鈴木大拙とファム・コン・ティエン」（『現代思想』，48 巻 15 号），2020 年として結実した。

上原こずえは、沖縄出身者の集団就職者たちの相互扶助と地域住民運動におけるコモンズの実践について調査をすすめ 「生存の危機」にある沖縄戦後の運動史を捉え直す」

（「年報日本現代史」2022 年）、「施政権返還後の福祉労働者の闘いが提起した人間排除のシステムの問題」（生活経済政策，306 号，2022 年）として結実した。

高榮蘭は、韓国、ベトナム、日本におけるベトナム戦争、韓国民主化支援の記憶とマイノリティの生存権と文学表象分析をすすめ、「レイプの位相と男性セクシュアリティ――大島渚『絞死刑』と大城立裕『カクテル・パーティ』のあいだから」（坪井秀人編『戦後日本の傷跡』臨川書店 2022 年）、『出版帝国の戦争　不逞なるものたちの文化史』（法政大学出版局、2024 年）として結実した。

呉世宗は、韓国（及び在日朝鮮人社会）、沖縄の文学者と在日朝鮮人の文学者の社会運動、社会問題への関わり方および描き方の分析をすすめてきたが、「「復帰」と「東アジア」をめぐって共振する思想――金達寿、金時鐘、岡本恵徳」（社会文学（57）、2023 年 3 月）、「沖縄で「つかみどころのない矛盾」を生きる――「大道嗣光」あるいは「朴達」（たち）」（「越境広場」（11）、2022 年 11 月）、「沖縄へ、アジアへ向かう「戦後民主主義」――大江健三郎『沖縄ノート』によせて」（「文学人」2023 年）として結実した。

キムウネは、沖縄、韓国 米軍占領下における沖縄と朝鮮戦争関連分析および「人類館」上演の表象分析をすすめてきたが、「座談会 歴史継承の場としての文化表現『喜劇・人類館』那覇公演を振り返って」（『越境広場』第 12 号、2023 年 8 月）、報告：「演劇集団「創造」の 1960 年代後半の活動から考える沖縄における文化運動」（『東アジア日本研究者協議会第 7 回国際学術大会』（於東京外国語大学、2023 年 11 月パネル報告）、「東アジアを考える手がかりとして「人類館」の上演活動」『東アジア日本研究者協議会第 7 回国際学術大会』（於東京外国語大学、2023 年 11 月、特別講演のコメント）として結実した。

石田智恵は、アルゼンチンの軍政期国家暴力をめぐる記憶の文化、服喪の思想に関する調査（強制失踪者家族会に関する参与観察）を研究テーマとしたが、「終わらない解決――アルゼンチン・記憶の民衆運動」（「季刊民族学」186 号、2023 年 10 月）として結実した。

武内進一は、ルワンダ、ブルンジの内戦の経験を研究テーマとして、「急成長のアフリカが求める国際関係―平和への鍵握るグローバル・サウス」（「中央公論」、137 巻 9 号、2023 年）、「アフリカ農村部における企業と人権―シエラレオネの事例から」（日本経営倫理学会、30 巻、2023 年）、“Pinning the TICAD along the idealism and realism axis”（East Asia Forum, 2022）、「中部アフリカ―ポストコロニアル国家の生成」（『岩波講座世界歴史 18　アフリカ諸地域　～20 世紀』2022 年）、「アフリカ諸国はロシアに忖度しているのか―非同盟運動と合理的な『あいまい戦略』」（外交，76 号、2022 年）、「アフリカビジネスのフロンティア性」（「海外投融資」31 巻 4 号、2022 年）、「アフリカの平和に向けた日本の政策と実践」（「国際問題」707 号、2022 年）として結実した。

これらの研究成果を通して、研究領域の異なる諸課題の共同研究を重ねつつ、生存権・生存思想を有する社会運動が、開かれた対話を目指す国際主義の質を獲得していることを集約することができた。加えて、文化的実践の試みを見据えるという観点から、沖縄のアイデンティティを問う演劇「人類館」上演への参与、基地という経験を画想・思想資源にまで掘り下げた与那覇大智の美術の展示（東京外国語大学 2022 年 12 月）、さらに集中講義を通して研究成果の学内外への還元を実現することができた。これによって、人文学における生存権・生存思想を核としたペダゴジー構築の基盤的研究とすることができたと考える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計21件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 友常勉	４．巻 76巻4号
２．論文標題 〈監獄化〉状況に住まうこと	５．発行年 2021年
３．雑誌名 福音と世界	６．最初と最後の頁 32,37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 友常勉	４．巻 214号
２．論文標題 生政治と同和行政・人権行政	５．発行年 2021年
３．雑誌名 部落解放研究	６．最初と最後の頁 4,25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高榮蘭	４．巻 61
２．論文標題 東アジア冷戦と脱境界的に書くこと(韓国語)	５．発行年 2021年
３．雑誌名 尚虚学報	６．最初と最後の頁 517，582
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高榮蘭	４．巻 126
２．論文標題 翻訳されるレイプと男性セクシュアリティー大島渚『絞死刑』と大城立裕『カクテル・パーティー』のあいだから」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本学報	６．最初と最後の頁 39,59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高榮蘭	4．巻 105
2．論文標題 文学の路上を生きる ： 在留資格から考える「日本語文学」という落とし穴	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本近代文学	6．最初と最後の頁 95，109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 呉世宗	4．巻 53
2．論文標題 未完の沖縄構想と在日朝鮮人文学者の 思想との連結のために	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本学	6．最初と最後の頁 1,26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 呉世宗	4．巻 73
2．論文標題 風土の中の風土、そして動物たち――金時鐘『日本風土記』	5．発行年 2021年
3．雑誌名 済州作家	6．最初と最後の頁 211,220
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 呉世宗	4．巻 22
2．論文標題 詩を生きる「社会主義者（サフェジュイジャ）」――金時鐘『地平線』を読む	5．発行年 2021年
3．雑誌名 教育国語	6．最初と最後の頁 4,24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 友常勉	4．巻 52巻7号
2．論文標題 「革命における時間とマルチチュード――戦後日本の新左翼運動とネグリ、長崎浩」	5．発行年 2024年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 92,105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 野平宗弘	4．巻 1187
2．論文標題 雑誌『思想』とベトナム戦争	5．発行年 2023年
3．雑誌名 思想	6．最初と最後の頁 129,146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 上原こずえ	4．巻 27
2．論文標題 「生存の危機」にある沖縄戦後の運動史を捉え直す」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 年報日本現代史	6．最初と最後の頁 139,172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 上原こずえ	4．巻 306
2．論文標題 「施政権返還後の福祉労働者の闘いが提起した人間排除のシステムの問題」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 生活経済政策	6．最初と最後の頁 21,24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 呉世宗	4．巻 57
2．論文標題 「「復帰」と「東アジア」をめぐって共振する思想――金達寿、金時鐘、岡本恵徳」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 社会文学	6．最初と最後の頁 18,30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 呉世宗	4．巻 11
2．論文標題 「沖縄で「つかみどころのない矛盾」を生きる――「大道嗣光」あるいは「朴達」（たち）」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 越境広場	6．最初と最後の頁 37,44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 呉世宗	4．巻 10
2．論文標題 「沖縄へ、アジアへ向かう「戦後民主主義」――大江健三郎『沖縄ノート』によせて」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 文学人	6．最初と最後の頁 25,32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石田智恵	4．巻 47巻4号
2．論文標題 「終わらない解決――アルゼンチン・記憶の民衆運動」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 季刊民族学	6．最初と最後の頁 34,41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 武内進一	4．巻 137巻9号
2．論文標題 「急成長のアフリカが求める国際関係―平和への鍵握るグローバル・サウス」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 中央公論	6．最初と最後の頁 58,65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 武内進一	4．巻 30
2．論文標題 「アフリカ農村部における企業と人権―シエラレオネの事例から」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 日本経営倫理学会誌	6．最初と最後の頁 23,37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 武内進一	4．巻 76
2．論文標題 「アフリカ諸国はロシアに忖度しているのか―非同盟運動と合理的な『あいまい戦略』」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 外交	6．最初と最後の頁 56-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 武内進一	4．巻 31巻4号
2．論文標題 アフリカビジネスのフロンティア性	5．発行年 2022年
3．雑誌名 海外投融資	6．最初と最後の頁 3,6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 武内進一	4．巻 707
2．論文標題 アフリカの平和に向けた日本の政策と実践	5．発行年 2022年
3．雑誌名 国際問題	6．最初と最後の頁 5,14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計27件（うち招待講演　13件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 武内進一
2．発表標題 今日のアフリカにおける土地紛争の背後にあるもの
3．学会等名 日本平和学会
4．発表年 2021年

1．発表者名 武内進一
2．発表標題 アフリカ研究からブラック・ライヴズ・マターを考える―地域研究への示唆
3．学会等名 JCAS年次総会一般公開シンポジウム「地域研究とグローバル・アジェンダ――『濃い研究』のもたらす視座――」（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 高榮蘭
2．発表標題 「植民地」なき植民地議論が「植民地」に遭遇したらー中野重治「雨の降る品川駅」からー」
3．学会等名 社会文学会
4．発表年 2021年

１．発表者名 高榮蘭
２．発表標題 How does literature talk about neoliberalism, gender, and memory?：Between "Watashi Mo Jidai no Ichibu Desu [I, Too, Am a Part of This Era] " and Sakiyama Tami ’s "Tsukiya, Aran"
３．学会等名 AAS 2021 Annual Coference
４．発表年 2021年

１．発表者名 高榮蘭
２．発表標題 出版帝国の『満・鮮』をめぐる戦争
３．学会等名 台湾清華大学台湾文学研究所・東アジア植民地文学研究会共催「2021 東亜植民地主義と文学会議」（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 上原こずえ
２．発表標題 民衆の視点からの体験の継承と出版
３．学会等名 東京外国語大学国際日本研究センター【比較日本文化部門主催 国際ワークショップ】東アジア連続講演会『境界と路上を考える』特別企画「沖縄「復帰」50年という問い」（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 友常勉
２．発表標題 日本社会の地域差別，日本社会におけるサバルタン研究：東アジアの疎通と相生
３．学会等名 韓国外国語大学校（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 野平宗弘
２．発表標題 A critique against the concept of ‘representation’ by a Vietnamese poet-thinker and the possibility of Eastern thought
３．学会等名 第11回CAASシンポジウム 2021年11月11日 the Consortium For Asian and African Studies
４．発表年 2021年

１．発表者名 野平宗弘
２．発表標題 Pham Cong Tien’s ontological dialogue with Martin Heidegger and Henry Miller
３．学会等名 Asien-Afrika-Institut, University of Hamburg
４．発表年 2021年

１．発表者名 キムウネ
２．発表標題 「演劇集団「創造」の1960年代後半の活動から考える沖縄における文化運動」
３．学会等名 『東アジア日本研究者協議会第7回国際学術大会』
４．発表年 2023年

１．発表者名 武内進一
２．発表標題 African states, rural resource management, and development: Implications of Rwanda’s developmentalism
３．学会等名 Studies Joint Seminar on State and Rural Resource Management in Africa, International presentation, Tokyo University of Foreign Studies - University of Ghana, Oral presentation (general), Accra, Ghana
４．発表年 2023年

１．発表者名 武内進一
２．発表標題 アフリカ諸国の曖昧な態度の背景にあるもの
３．学会等名 学術フォーラム　地球規模のリスクに立ち向かう地域研究　ウクライナ危機に多角的に迫る，国内会議，日本学術会議（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 武内進一
２．発表標題 TICAD between Idealism and Realism, The Tokyo International Conference on African Development: Milestones and Prospects
３．学会等名 Stellenbosch University Japan Centre (SUJC) in association with the Embassy of Japan in Pretoria（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 上原こずえ
２．発表標題 沖縄は東アジアの平和の 「触媒」 になり得るか
３．学会等名 第7回東アジア日本研究者協議会
４．発表年 2023年

１．発表者名 上原こずえ
２．発表標題 1970－80年代の開発をめぐる住民運動（金武湾反CTS闘争）資料が示す 「開発」力学の環太平洋地域における同時代性
３．学会等名 第7回東アジア日本研究者協議会、一般公募パネル
４．発表年 2023年

１．発表者名 上原こずえ
２．発表標題 一九七〇～八〇年代の沖縄の闘争と再生産労働をめぐる問い
３．学会等名 ふぇみゼミ　U30
４．発表年 2022年

１．発表者名 上原こずえ
２．発表標題 継ぎ続ける沖縄の民衆運動　金武湾闘争と喜瀬武原闘争から学ぼう
３．学会等名 新時代アジアピースアカデミー 戦後沖縄の平和運動史
４．発表年 2022年

１．発表者名 友常勉
２．発表標題 Hanga and Manga: Aesthetic Cultural Movement in Post War Japan
３．学会等名 17th International Meeting, European Association for Japanese Studies (EAJS) , International presentation, European Association for Japanese Studies (EAJS)（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 友常勉
２．発表標題 生の形式の臨界＝消尽と新たな〈生〉――サバルタンと宗教
３．学会等名 日本近代文学会秋季大会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 高榮蘭
２．発表標題 " The Emperor and Korea: Thinking Through Oe Kenzaburo’s Man'nen gan'nen no futtoboru (published in English translation as The Silent Cry)" パネル名 " Personal Matters: Hiroshima, Okinawa, Korea & Beyond in the Writing of Oe Kenzaburo"
３．学会等名 AAS 2024 Annual Coference at Seattle
４．発表年 2024年

１．発表者名 高榮蘭
２．発表標題 ASCJ 2023 "Challenging the Cold War Boundaries by articulating personal experience in Korea and Korean Diasporic Communities in the 1950s-1960s" 「Kim Talsu’s “The Trial of Pak Tal” and Korean “Tenko”: The Rift between the Mainland and Okinawa in the 1950s-1960s Japan」
３．学会等名 The Twenty-fifth Asian Studies Conference Japan(ASCJ)
４．発表年 2023年

１．発表者名 高榮蘭
２．発表標題 「ジェノサイドをきわめて「個人的」に読む ；大江健三郎『ヒロシマノート』」（韓国語）
３．学会等名 韓国漢陽大学（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 高榮蘭
２．発表標題 「雑誌『改造』と「転向」商品としての「朝鮮」―1930年代の日本語文学を考えるために」
３．学会等名 地球的世界文学大学専門家セミナー、主催世界文学大学（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 高榮蘭
２．発表標題 " Women’s Mobility and the Emergence of “ Zainichi “ As a Category: Between Ri Kai Sei’s “Back on the Road Again” (Mata Futatabi no Michi) and “The Woman Who Fulled Cloth” (Kinuta o Utsu Onna) "; "Between the Transnational and the International : Shifting Borders of Political Subjectivity in Postwar Literature in Japan "
３．学会等名 AAS 2023 Annual Coference
４．発表年 2023年

１．発表者名 高榮蘭
２．発表標題 " The Structure of the“Japanese-Style” Cold War and the Discourse of “Asia”: Between Vietnam War Reporting and the Anti-Vietnam War Movement"
３．学会等名 nternational Workshop: Wars and Revolution in (E)motion:Inter-regional Cultural Exchanges in Cole War Asia（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 高榮蘭
２．発表標題 K文学とクールジャパンのあいだから―日本語で「82年生まれ、キム・ジヨン」と「こびとが打ち上げた小さなボール」を重ね読みする―
３．学会等名 2022年世界韓国語ハンマダン「冷戦と分断を超える韓国語の書物の文化史」 2022年10月6日 主催：韓国文化体育観光部、国立国語院、成均館大学国文学科BK 21教育研究団、パンギョ語文学会。後援：韓国言論振興財団（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 高榮蘭
２．発表標題 文学の路上に集まろう！―「母語」幻想と新しい文学の書き手たち―
３．学会等名 第７回福大韓国学シリーズ（講演会） 2022年10月21日 共催：福岡大学人文学部東アジア地域言語学科（招待講演）
４．発表年 2022年

〔図書〕　計9件

1．著者名 高榮蘭	4．発行年 2021年
2．出版社 大阪大学出版会	5．総ページ数 367
3．書名 文学者の反核声明と韓国民主化支援の時代ーHIROSHIMA・冷戦・光州ー（日本語）坪井秀人・宇野田尚哉編『対抗文化史 冷戦期日本の表現と運動』	

1．著者名 武内進一	4．発行年 2021年
2．出版社 Langaa RPCIG	5．総ページ数 308
3．書名 When African Potentials fail to work: The background to recent land conflicts in Africa, in African Politics of Survival Extraversion and Informality in the Contemporary World	

1．著者名 呉世宗	4．発行年 2021年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 196
3．書名 海を渡る記憶と遠ざかる身体――金在南「鳳仙花のうた」と崎山多美「アコウクロウ幻視行」,思想・文化空間としての日韓関係――東アジアの中で考える	

1．著者名 呉世宗	4．発行年 2021年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 296
3．書名 残余の声を聴く――沖縄・韓国・パレスチナ（共著）	

1．著者名 友常勉	4．発行年 2021年
2．出版社 国際日本文化研究センター	5．総ページ数 191
3．書名 東京外国語大学における「国際日本学」,『環太平洋から「日本研究」を考える』	

1．著者名 石田智恵	4．発行年 2021年
2．出版社 昭和堂	5．総ページ数 472
3．書名 ある「母」の生成 ― アルゼンチン強制失踪者の哀悼と変わりゆく家族，『ジェンダー暴力の文化人類学――家族・国家・ディアスポラ社会』	

1．著者名 高榮蘭	4．発行年 2024年
2．出版社 法政大学出版局	5．総ページ数 362
3．書名 『出版帝国の戦争　不逞なるものたちの文化史』（法政大学出版局、2024年	

1．著者名 高榮蘭	4．発行年 2022年
2．出版社 臨川書店	5．総ページ数 376
3．書名 「レイプの位相と男性セクシュアリティ――大島渚『絞死刑』と大城立裕『カクテル・パーティ』のあいだから」、坪井秀人編『戦後日本の傷跡』	

１．著者名 武内進一	４．発行年 2023年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 316
３．書名 中部アフリカ―ポストコロニアル国家の生成，岩波講座世界歴史18	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	高　榮蘭 (Ko Yonran) (30579107)	日本大学・文理学部・教授 (32665)	
研究分担者	石田　智恵 (Ishida chie) (50706661)	早稲田大学・法学学術院・准教授 (32689)	
研究分担者	武内　進一 (Takeuchi Shinichi) (60450459)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	上原　こずえ (Uehara Kozue) (60650330)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	キム　ウネ (Kim Eunae) (70875799)	明治学院大学・国際平和研究所・研究員 (32683)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	野平　宗弘 (Nohira Munehiro) (80711803)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	呉　世宗 (Oh Sejong) (90588237)	琉球大学・人文社会学部・教授 (18001)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関